

名古屋市のコシボソヤンマ

高崎 保郎

〒465-0026 名古屋市名東区藤森一丁目14

Boyeria maclachlani (Odonata, Aeshnidae) in Nagoya City, Aichi Prefecture, Japan

Yasuo TAKASAKI

14 Fujimori 1-chome, meito-ku, Nagoya, Aichi 465-0025

要旨

コシボソヤンマ (*Boyeria maclachlani*) は名古屋市においては、従来稀な種であり、1960年代以降は記録が跡絶えていたが、2018年再発見されたのを機に、名古屋市における棲息状況を総括するものである。

1. コシボソヤンマとは

ヤンマ科の種としてはミルンヤンマと共に数少ない流水性種である。低山地、丘陵の麓から平地にかけての小流や中程度の河川に幼虫が棲息し、時に流下と考えられる個体が大河の淵で採集される。成虫は日中や夕方これらの流れ上を低く飛翔することが多い。産卵は流れにちらばる朽木等に行われ、産卵行動は夜中に及ぶことが観察されている(図1)。幼虫は頭部後角が平たく角張り小突起を有すること、腹部の側棘が長く鋭く尖ること、触れると若齢から終齢に至る迄背方に強く反りかえり、肢を縮め擬死を呈することが顕著な特徴である。成虫の腹部第3節が著しく細まることが和名の由来である(図2)。

2. 過去の記録

愛知県では広く分布しているが、尾張南西部、同南部での記録は少ない。名古屋市内の既知記録は次の8例を知るのみである。

(1) 高木茂(1936, 昆虫世界464号)(高木, 1936)

名古屋市の最古の記録である。昆虫世界は岐阜市の(財)名和昆虫研究所の刊行物であった。本報告の範囲は「瑞穂町一帯特に萩山公園, 山崎川流域附近」としており、



図1 流水上の朽木に産卵
1996.8.11 瀬戸市海上町 篠田川



図2 林内で静止, くびれる腹部第3節
1996.8.11 瀬戸市海上町 篠田川



図3 雄, 1954.8.14 千種区東山



図4 羽化殻, 1954.7.13 北区楠町味鏡

現在の瑞穂区萩山町の名古屋市立大学薬学部, 山崎川を挟んだその対岸辺りを指す。記述はデータを欠き文章で「コシボソヤンマ 七月頃出現し山林に普通」としている。昭和9年頃からの調査で当時なら山崎川からの発生も考えられる。

(2) 山本悠紀夫(1990, 愛知県の昆虫(上))(安藤ほか, 1990)

千種区東山, 16-VII-1947, 5♂3♀

千種区猫ヶ洞, 13-VII-1946, 3♂

千種区本山, 3-VIII-1946, 1♀

(3) 松井一郎(1990, 愛知県の昆虫(上))

守山区, 9-VII-1949, 1♂

(4) 成瀬善一郎(1958, 佳香蝶10(34))(成瀬, 1958)

庄内川の松川橋畔(註; 守山区川柳原), 幼虫, 頭数不明

(5) 高崎保郎(1990, 愛知県の昆虫(上))

千種区東山, 14-VIII-1954, 1♂(図3)

(6) 高崎保郎(報文掲載なし)

北区楠町味鏡八田川(採集時西春日井郡楠村新木津用水), 13-VII-1954, 1羽化殻(図4)

本種の過去の記録地を見ると, 一方は市東部の段丘, 丘陵地形上にあり現在は全く市街化しているが, 当時は起伏に富み広く樹林が残存し, 流れも存在していた。山崎川も1940年代末頃迄は自然的な多種のトンボを産した清流であった。他方は市北端の庄内川流域である。北

区新市域と昔からの里地守山区である。

本種は市レッドリストでは準絶滅危惧種に指定しているが, 減少主要因は丘陵地帯から平地にかけて多く存在した中小河川の消滅と河川構造の人工化並びに水質汚濁である(高崎, 2015)。

3. 2018年以降の記録

数十年振りに次の様に市内で本種が再確認された。

守山区上志段味東谷, 27-VII-2018, 2幼虫, 鶴殿清文
同上, 26-V-2020, 3幼虫, 高崎保郎

棲息場所は, 東谷山南麓の守山区, 瀬戸市境の溪流と愛知用水左岸の丘陵斜面下端に存在する細流(用水下の暗渠を経て右岸に至る)の合流点下の大矢川源流部である。川幅1~2m程の小流で合流部前後の100m程は兩岸が草木に覆われ明るい。それから下流は雑木林内を流下する半日陰となる。河床は砂礫底, 岩盤, 泥底。幼虫はハグロトンボ, シオカラトンボを見, オニヤンマは多い。成虫は上流から下降したアサヒナカワトンボを散見, ニホンカワトンボは稀, コオニヤンマを1回だけ目撃した。

2018年7月27日採集されたのは若齢幼虫であったが(図5), その直後8月8日になごや生物多様性保全活動協議会主催の「大矢川源流域の生きもの調べ」が開催され, その結果が所報「生きものシンフォニー」に掲載された。「ギンヤンマ系ヤゴ採集」の記述とヤゴの写真



図5 若齢幼虫, 2018.7.27 守山区上志段味東谷



図6 終齢・中齢幼虫, 左右個体は疑死を呈する, 2020.5.26 守山区上志段味東谷

が載せられており, 小さい写真ではあったが明らかにコシボソヤンマ中齢後期の幼虫と判定された。同時期に二つのかけ離れた齢期の幼虫が存在したことは2年に亘り産卵が行われたことを示し, 本種が定着していることが示唆された。2019年は本格的な調査は行わなかった。2020年5月に終齢幼虫2頭, 中齢1頭を採集した(図6)。以上により定着はほぼ確実と見られる。守山区以外市内での棲息は先ず可能性が無く, 現時点で市内唯一の産地である。近くの尾張旭市に跨る森林公園ゴルフ場に占拠された地域については不明である。南東方へ7.5 km隔たる瀬戸市海上の森西部では多産するところがあり飛来する可能性もある。

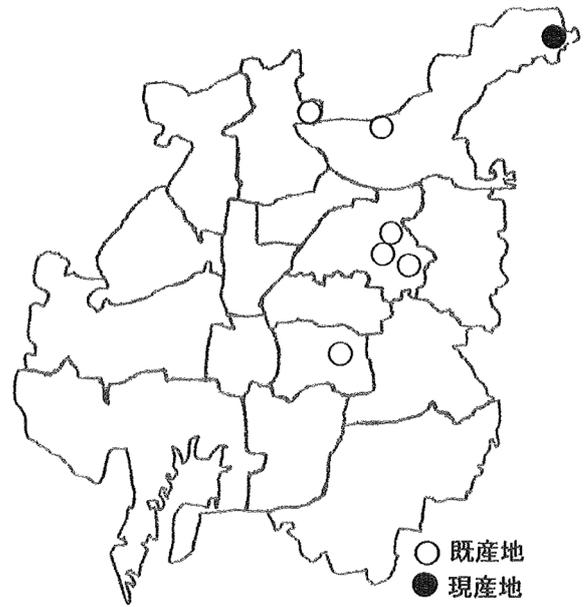


図7 コシボソヤンマの記録場所

4. 謝辞

調査に同行協力戴いた鵜殿清文氏に深謝する。

引用文献

- 安藤 尚・山本悠紀夫・高崎保郎・相田正人. 1990. 愛知県のトンボ目. 愛知県の昆虫(上), PP.9-78. 愛知県農地林務部自然保護課.
- なごや生物多様性センター. 2018. 生きものシンフォニー, (25). なごや生物多様性センター.
- 成瀬善一郎. 1958. 松川橋(庄内川)附近水棲昆虫について. 佳香蝶, 10(34):16-17.
- 高木 茂. 1936. 名古屋市瑞穂附近の蜻蛉目録. 昆虫世界, 40(464):135-139.
- 高崎保郎. 2015. トンボ目. 名古屋市の絶滅のおそれがある野生生物レッドデータブックなごや2015—動物—, pp.173-334. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.